

氏名： 天野 知香
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 准教授
学位： 博士（文学）／ Ph.D(art history)
専門分野： 西洋近代美術史
Art history(modern western art,19-2th french art history, feminist art history)
E-mail： amano.chika@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

美術史／フェミニズム美術史／フランス近代美術／アンリ・マティス／装飾芸術
art history / feminisme art history / french modern art / Henri Matisse / decorative art

◆主要業績

総数（4）件

- ・「美術史をほどく？マリー・ヴァシリエフとモダニズムの時代」池田忍・小林緑編『ジェンダー史叢書4 視覚表象と音楽』明石書店、21年所収。pp6-88.
- ・「マティスと室内」、『ボナールの庭、マティスの室内 日常という誘惑』展カタログ、ポーラ美術館、29年所収。pp.8-18.
- ・「時代の徴候？」アール・デコ」とその周辺『ドレスタディ』56号、29秋、pp.4-13.
- ・「パリのミュシャと『装飾芸術』の時代、『ユリイカ』、29年、9月。pp.63-77.

◆研究内容 / Research Pursuits

19世紀から2世紀、さらに現代にかけてのフランスを中心とした装飾芸術と造形美術、および美術史的言説における「他者」の位相とその表象を中心に研究・調査を進めている。加えて世紀末における装飾芸術の位相や、室内と絵画の問題、2世紀における女性芸術家をめぐる問題や理論に関して研究を続け、論文として発表した。

◆教育内容 / Educational Pursuits

美術史学特殊講義においては2世紀美術における諸問題を、モダニズムの見直しや、ジェンダーやポストコロニアリズムの視点とともに考察した。

LA ジェンダー アートとジェンダーでは、ジェンダーから見た美術史の諸問題とフェミニズム・アートの作例を分析した。

美術史学演習においては William Rubin, "From Narrative to " Iconic" in Picasso" をテキストに、2世紀初頭のフランス美術の諸問題の理解に加え、美術史学研究の基本的な方法と問題点、論文読解の基本的な指導を行った。卒論指導、および大学院の西洋美術史演習に関しては毎回の学生の発表に応じて指導を行った。

◆研究計画

19世紀から両大戦間フランスを中心とした装飾の位相と装飾芸術、造形美術を含めた視覚表象、および美術史的言説における「他者」表象をテーマに、現代までを視野に入れた研究を進める。今後も、日本を含めた他の地域の研究とも学際的に共同しながら、ジェンダーやポストコロニアリズムの視点から、植民地時代を中心として現代に至る装飾と「他者」をめぐる研究をさらに展開してゆきたい。

◆メッセージ

美術史は単に一般に重要とされる芸術作品を無条件に礼賛したり芸術家の人生をたどるものではありません。メディアにあふれている「美術」や「傑作」についての固定的な観念から自由になって、あなた自身の批判的な知と想像力を駆使して視覚的な表象に向き合ってみてください。それはこれまでの「私」を揺るがし、今あなたが生きている時代や社会と新たな関わりを見いだす可能性を開くことになるはずです。大学では、美術史という学問を通じて、教師と学生がともにこうした試みに必要な力を磨いています。